

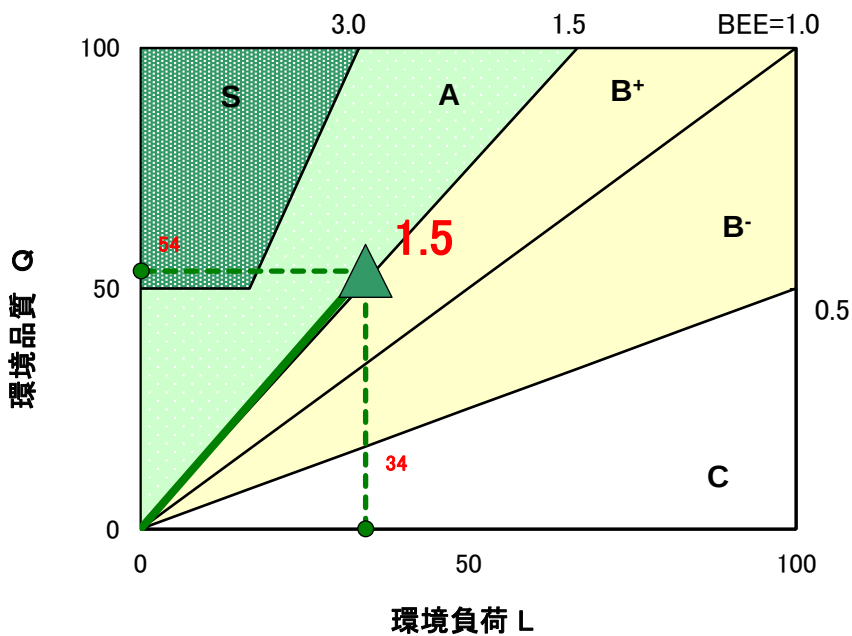
CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観
建物名称	サーパスシティ平成マークテラス	階数	地上12F	
建設地	熊本県熊本市中央区十禅寺町331-	構造	RC造	
用途地域	準工業地域、方22条区域	平均居住人員	450 人	
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年	
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2022年1月 予定	評価の実施日	2020年1月16日	
敷地面積	5,601 m ²	作成者	椎原	
建築面積	1,334 m ²	確認日		
延床面積	10,990 m ²	確認者		

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)





BEE = 1.5

■ BEE (環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B ⁺	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B ⁻	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値 (排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能 (ランク表示)



排出率

66%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



評価点

79

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

【重点事項4】 循環型社会の実現

94.7

62.5

67.5

78.0

■ 熊本県重点評価基準

判定値 (評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

Page : 1/6

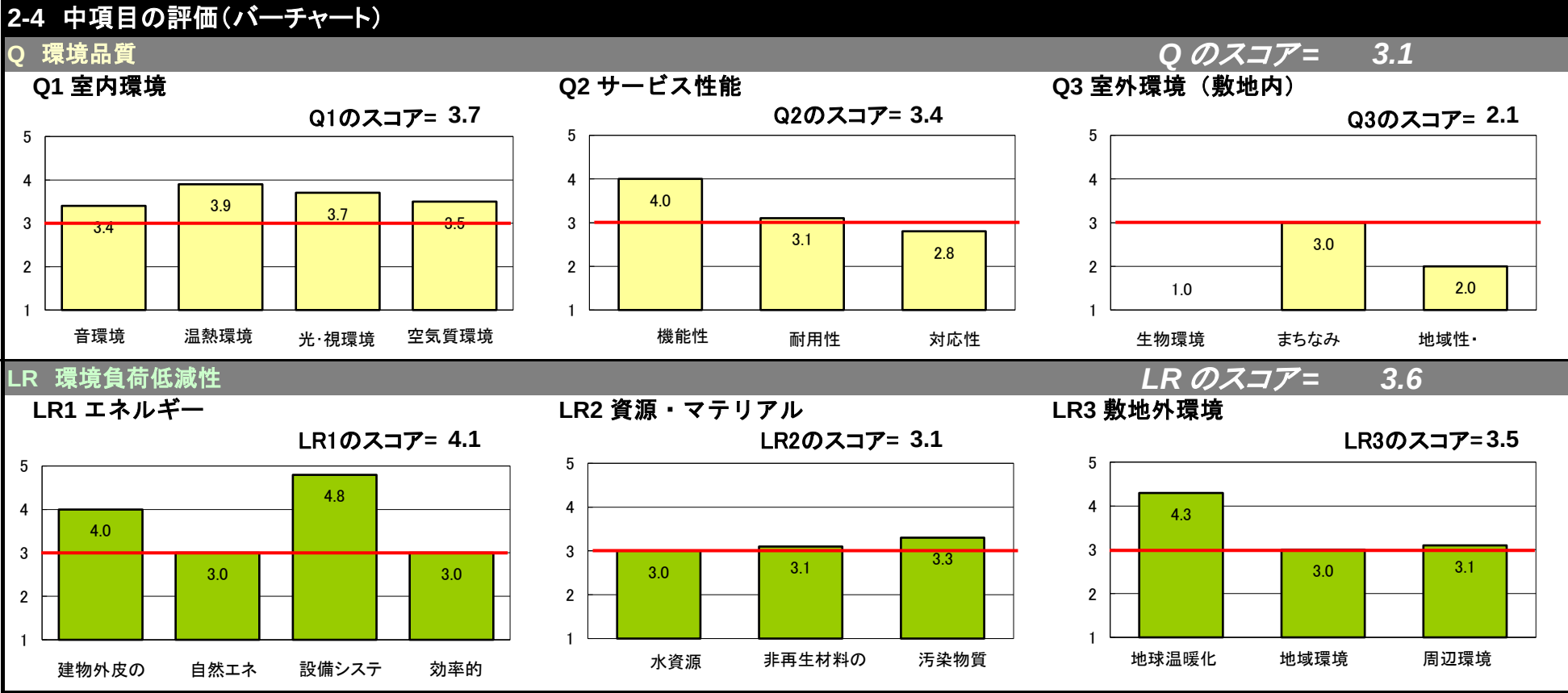
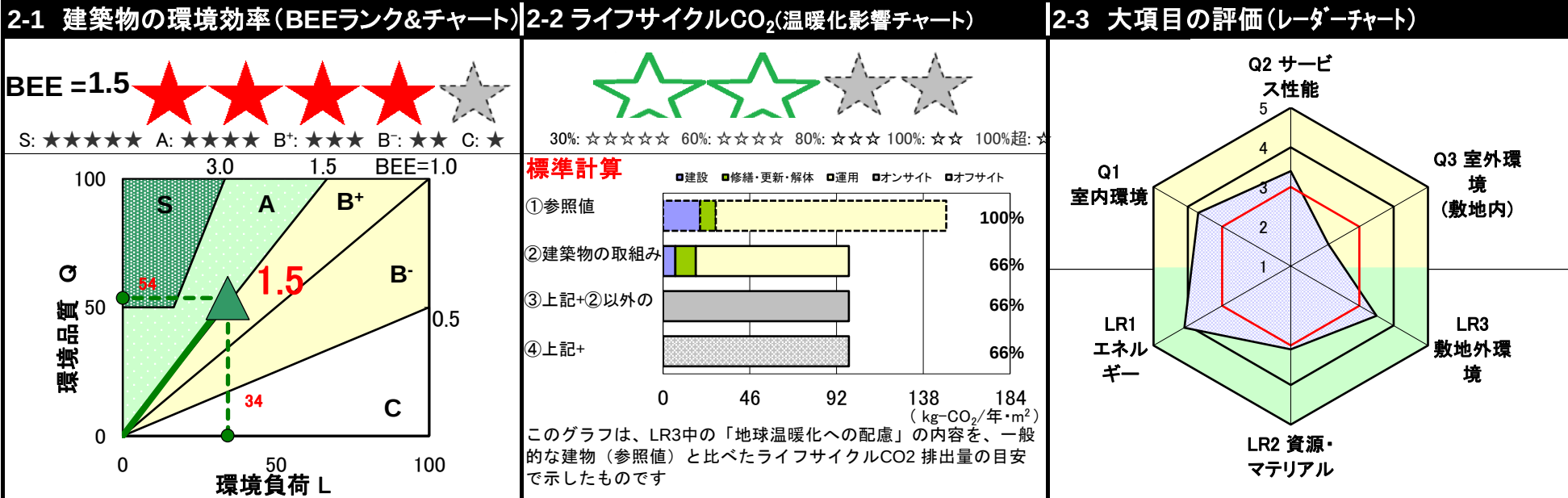
Sheet : 1/5

CASBEE[®]-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 I使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要				1-2 外観	
建物名称	サーパスシティ平成マークテラス			階数	地上12F
建設地	熊本県熊本市中央区十禅寺町331-1			構造	RC造
用途地域	準工業地域、方22条区域			平均居住人員	450 人
地域区分	6地域			年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅			評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年1月 予定			評価の実施日	2020年1月16日
敷地面積	5,601 m ²			作成者	椎原
建築面積	1,334 m ²			確認日	
延床面積	10,990 m ²			確認者	



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
サーパスシティ平成マークテラス

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目				環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										3.1
Q1 室内環境							0.40		-	3.7
1 音環境						3.0	0.15	3.5	1.00	3.4
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音						3.0	0.50	4.0	0.50	
1		開口部遮音性能		遮音性能T-2を採用		3.0	1.00	5.0	0.30	
2		界壁遮音性能				3.0	-	3.0	0.30	
3		界床遮音性能(軽量衝撃源)		LL-45を採用		3.0	-	4.0	0.20	
4		界床遮音性能(重量衝撃源)		LH-50を採用		3.0	-	4.0	0.20	
1.3 吸音						3.0	-	3.0	-	
2 温熱環境						3.0	0.35	4.0	1.00	3.9
2.1 室温制御						3.0	1.00	4.0	1.00	
1		室温				-	-	-	-	
2		外皮性能				3.0	1.00	4.0	1.00	
3		ゾーン別制御性				3.0	-	-	-	
2.2 湿度制御						-	-	-	-	
2.3 空調方式						-	-	-	-	
3 光・視環境						3.3	0.25	3.7	1.00	3.7
3.1 昼光利用						4.2	0.30	3.5	0.50	
1		昼光率		共用部レベル5、専有部では過半数の住居でレベル4以上		5.0	0.60	4.0	0.50	
2		方位別開口				-	-	3.0	0.30	
3		昼光利用設備				3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策						3.0	0.30	4.0	0.50	
1		昼光制御		コンクリート庇及び室内にカーテン		3.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度						3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御						3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境						3.0	0.25	3.6	1.00	3.5
4.1 発生源対策						3.0	0.60	4.0	0.63	
1		化学汚染物質		F☆☆☆☆をほぼ全面的に採用		3.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気						3.0	0.40	3.0	0.38	
1		換気量				3.0	0.50	3.0	0.33	
2		自然換気性能				3.0	-	3.0	0.33	
3		取り入れ外気への配慮				3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理						-	-	-	-	
1		CO ₂ の監視				3.0	-	-	-	
2		喫煙の制御				3.0	-	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	3.4
1 機能性						3.0	0.40	4.2	1.00	4.0
1.1 機能性・使いやすさ						3.0	0.40	5.0	0.60	
1		広さ・収納性				3.0	-	3.0	-	
2		高度情報通信設備対応		各住戸に1ギガビットのインターネット環境を整備		3.0	-	5.0	1.00	
3		バリアフリー計画				3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性						3.0	0.30	3.0	0.40	
1		広さ感・景観				3.0	-	3.0	0.50	
2		リフレッシュスペース				3.0	-	-	-	
3		内装計画				3.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理						3.0	0.30	-	-	
1		維持管理に配慮した設計				3.0	0.50	-	-	
2		維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						3.1	0.30	-	-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50	-	-	
1		耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-	
2		免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						3.6	0.30	-	-	
1		躯体材料の耐用年数		住宅性能表示 等級3		5.0	0.20	-	-	
2		外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.20	-	-	
3		主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10	-	-	
4		空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-	
5		空調・給排水配管の更新必要間隔		給水管 H1VP 給湯管 架橋ポリエチレン管 排水管 VP		5.0	0.20	-	-	
6		主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						3.0	0.20	-	-	
1		空調・換気設備				3.0	0.20	-	-	
2		給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-	
3		電気設備				3.0	0.20	-	-	
4		機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	
5		通信・情報設備				3.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			2.8	0.30	2.8	1.00	2.8
3.1 空間のゆとり	3.1 空間のゆとり		-	-	2.6	0.50	
	1	階高のゆとり	3.0	-	3.0	0.60	
	2	空間の形状・自由さ	3.0	-	2.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり		3.0	-	3.0	0.50	
	3.3 設備の更新性		2.8	1.00	-	-	
	1	空調配管の更新性	3.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性	2.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性	3.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性	3.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性	3.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	3.1 地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.1
1 建物外皮の熱負荷抑制		住宅性能評価基準 等級4	4.0	0.20	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.86	4.8	0.50	-	-	4.8
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
4.1 モニタリング	集合住宅以外の評価		-	-	-	-	
	4.1	モニタリング	3.0	-	-	-	
	4.2	運用管理体制	3.0	-	-	-	
	集合住宅の評価		3.0	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング	3.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制	3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水	1.1 節水		3.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無	3.0	0.70	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無	3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.1	0.60	-	-	3.1
2.1 材料使用量の削減	2.1 材料使用量の削減		3.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用	3.1 有害物質を含まない材料の使用		4.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		3.0	0.70	-	-	
	1	消火剤	-	-	-	-	
	2	発泡剤(断熱材等)	3.0	0.50	-	-	
	3	冷媒	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2概算値 66%	4.3	0.33	-	-	4.3
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止	2.1 大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.2	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減	3.0	0.25	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制	3.0	0.25	-	-	
	3	交通負荷抑制	4.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮	3 周辺環境への配慮		3.1	0.33	-	-	3.1
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1	騒音	3.0	1.00	-	-	
	2	振動	-	-	-	-	
	3	悪臭	-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-	
3.1 風害の抑制	3.1 風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
	3.2 砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
	3.3 日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制		3.7	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0	0.70	-	-	
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0	0.30	-	-	

CASBEE[®]熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

空気住環境、機能的な空間作り、敷地内環境、省エネルギー、敷地外環境への配慮にそれぞれ取り組んでおり、低炭素社会の実現に努めている。

Q1 室内環境

全戸サッシは複層ガラスを使用、外壁は断熱材を吹付けた防露壁とした。またシックハウス対策はF☆☆☆☆材料を採用した。

Q2 サービス性能

共用廊下・住戸内床は段差をなくし、バリアフリーに対処した。

Q3 室外環境（敷地内）

建物周辺に空地を設け、採光・通風を確保した。

LR1 エネルギー

共用部照明は、タイムスケジュール制御とし、共用部・住戸内共、主要な照明はLED照明を採用、給湯器はエコキュートを採用した。

LR2 資源・マテリアル

流し台等の水栓は節湯型とし、便器は節水型とした。

LR3 敷地外環境

前面道路沿いに植栽帯を設け、緑豊かな通りとなるようにした。

その他

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称

サーパスシティ平成マークテラス

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本県重点評価結果					総合評価点	79
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				94.7	0.40	37.88
Q1-2.1.2	外皮性能	3.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	3.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	4.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.8	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	3.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	4.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				62.5	0.20	12.50
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				67.5	0.20	13.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	3.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				78	0.20	15.60
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.6	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	2.8	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数